

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット*認証申請書

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) えりも町

住所：北海道幌泉郡えりも町字本町206番地

氏名：町長 大西 正紀 ㊟

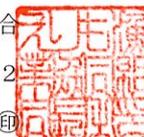
法人番号：2000020016098



(共同申請者) えりも漁業協同組合

住所：北海道幌泉郡えりも町字本町182番地の2

氏名：代表理事組合長 坂本 好則 ㊟



(共同申請者) えりも岬の緑を守る会

住所：北海道幌泉郡えりも町字本町206番地

氏名：会長 坂本 好則 ㊟



Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	昭和から続く北海道えりもの天日干し日高コンブの生産と藻場再生によるCO2吸収

<p>プロジェクト区分 (複数選択可)</p>	<p>自然基盤 吸収源の回復、維持、劣化抑制</p>
<p>プロジェクト概要</p>	<p>【プロジェクト概要】 当プロジェクトは、地先のミツイシコンブ藻場を回復させるため、小型海藻類が繁茂している荒廃地区の大規模な着生基質の改善を行ったほか、回復したミツイシコンブ藻場は漁期中又は漁期後に漁業者が簡易的な雑海藻の除去を続けたことにより、大型海藻であるミツイシコンブの育成環境を改善し、藻場の維持・管理に努めた。雑海藻類の除去によりミツイシコンブ藻場を回復させたことで、ミツイシコンブ資源の回復・維持のみならず、ウニ類等の磯根資源をはじめ多様な水産動植物の保護と繁殖、更にはCO2吸収により地球温暖化の緩和に寄与したことと考えられることから本申請を行うものである。</p> <p>(漁獲対象年前の禁漁年のコンブを申請対象としている：別添1参照)</p> <p>【プロジェクト実施者の役割】 えりも町：資源量調査、環境教育、広報・普及 えりも漁業協同組合：資源量調査、維持管理、環境教育への協力 えりも岬の緑を守る会：植樹活動、環境教育への協力</p>
<p>申請対象期間に実施した活動の概要</p>	<p>【雑海藻駆除と日常の維持管理】 ミツイシコンブ漁獲量の増加を図るため、ミツイシコンブ漁場では雑海藻が繁茂すると、漁業者自らが手作業あるいはチェーン振り(海底までチェーンを引きずったブイを海面に浮かべ、波の動揺でチェーンが振られ、雑海藻を削り取る)等で駆除を行い、日常的な維持管理に努めている。駆除した雑海藻は海上には上げず、ブルーカーボンへと残存するよう配慮している。</p> <p>【ブルーカーボン計測のための現地調査】 R5年6～7月に、歌別と庶野を代表区に、潜水による試料採取を行った。ほか藻場面積の把握のためドローン空撮と、船上からの観察(海藻種の確認)を全地区で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 笛舞 8月23日 ・ 新浜 6月22日 ・ 歌別 6月30日 ・ 東洋 8月23日 ・ えりも岬 7月5日 ・ 庶野 7月4日 ・ 目黒 7月5日
<p>プロジェクト実施開始日</p>	<p>昭和28年～現在まで</p>

方法論1	①対象生態系面積の算定方法	<p>【生態系】 海藻</p> <p>【藻場】 コンブ場</p> <p>【構成種】 マコンブ</p>
	②クレジット認証対象期間	2022年10月01日～2023年09月30日
	③対象とする面積	<p>【面積】</p> <p>4.69 (ha)</p> <p>【面積の算定根拠】</p> <p>ドローンのカメラを真下に向け撮影した空撮写真を、機体の高度・位置座標から簡易オルソ化の平面補正を施し、潜水調査位置・観察記録を参考に、画像色調の目視判別から藻場の特定を行った。GIS上で作業を行い、特定した藻場面積をGISにて集計した。</p> <p>【面積の資料】</p> <p>添付2藻場面積.pdf</p>
	④吸収係数	<p>【単位面積あたりの湿重量】</p> <p>350</p> <p>【単位面積あたりの湿重量の算定根拠】</p> <p>ミツイシコンブの現存量は、潜水調査を行い、駆除1年後の区画から試料を採取し、複数地点での平均値35.0kg/m²を、ha当りのトン数に換算した。</p> <p>【単位面積あたりの湿重量に関する資料】</p> <p>添付3コンブ現存量.pdf</p> <p>【含水率】</p> <p>83 (%)</p> <p>【含水率の算定根拠】</p> <p>複数の文献調査からの平均値</p> <p>【含水率に関する資料】</p> <p>添付4コンブ含水率.pdf</p> <p>【P/B比】</p> <p>2.7</p> <p>【P/B比の算定根拠】</p> <p>複数の文献調査からの平均値</p> <p>【P/B比に関する資料】</p> <p>添付5コンブPBmax比.pdf</p> <p>【炭素含有率】</p> <p>29 (%)</p> <p>【炭素含有率の算定根拠】</p> <p>複数の文献調査からの平均値</p> <p>【炭素含有率に関する資料】</p> <p>添付6コンブ炭素含有率.pdf</p> <p>【残存率1】</p> <p>0.0472</p> <p>【残存率1の算定根拠】</p> <p>文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照</p> <p>【残存率1に関する資料】</p> <p>添付ファイルなし</p>

方法論1	④吸収係数	<p>【残存率2】 0.0285</p> <p>【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照</p> <p>【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1.5</p> <p>【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照</p> <p>【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 90.972(t-CO2)</p>
	⑥確実性の評価	<p>【対象生態系面積の評価】 95% (面積：4.69(ha)×評価：95%)</p> <p>【吸収係数の評価】 90% (吸収係数：19.3971×評価：90%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 船外機船（11kW / 15PS 程度）</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 11.00(h)</p> <p>【出力】 44.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO2排出量】 0.235(t-CO2)</p>
	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【CO2吸収量】 17.133(t-CO2)</p> <p>(面積：4.69(ha)×評価：95%)×(吸収係数：4.27×評価：90%)</p> <p>【設定した根拠】 対照区を設定して、雑海藻繁茂状態のCO2吸収量を計算した。</p> <p>【資料】 添付7ベースラインの吸収量.pdf</p>
	⑨クレジット認証対象の吸収量	60.412(t-CO2)

合計のクレジット認証対象の吸収量	60.4(t-CO2)
------------------	-------------